

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年11月12日

【評価実施概要】

事業所番号	3470103189
法人名	社会福祉社法人 広島常光福祉会
事業所名	グループホーム げんき福田
所在地	〒732-0029 広島市東区福田5丁目1168番地の1 (電話)082-899-7588

評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町1丁目6番29号
訪問調査日	平成20年11月7日

【情報提供票より】(20年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 12 月 1 日
ユニット数	2 ユニット
職員数	13 人
利用定員数計	18 人
常勤	11 人
非常勤	2 人
常勤換算	9.1 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2階建ての 1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	実費 円	
敷金	有(200,000 円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	350 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり 1,350 円			

(4) 利用者の概要(11月7日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	5 名	要介護2		7 名	
要介護3	4 名	要介護4		1 名	
要介護5	1 名	要支援2		0 名	
年齢	平均 85.4 歳	最低	77 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ふくだクリニック、大田川病院、高陽中央病院、沢村歯科医院
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>高速道路のインターチェンジ近くに位置し、家族の面会も多い。1階と2階にそれぞれ9名の定員で、現在は満床である。内部は、広い食堂兼リビングがあり、ゆったりと過ごせるように設計されている。職員たちは「おいしい」「たのしい」「ここがいい」の理念の下に、家庭的で暖かく過ごしていただくことを目標に努力している。地域の行事にも積極的に参加し、月に1回の遠足と行事には家族も一緒に参加して楽しむ取り組みをしている。職員たちは入居者の笑顔が見られるように支援していきたいと考えている。近所に同一法人のグループホームや老人保健施設もあり、職員研修も合同で有機的に成されている。</p>

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価での取り組み事項は「理念の共有の取り組み」である。毎月1回開催される職員会議で、改善策について話し合いを行った。「理念について」必要な課題については職員で話し合った結果、「利用者の立場に立って考える」「家庭的で暖かかみのある環境」がこれから大事であることを認識したので、今後はこれらを是非実現するように取り組む努力をしていくこととしている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>「地域との付き合い」などは3項目について取り上げて実施し、職員会議で進捗状況や改善策について話し合っており取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進委員会には、地域の民生委員や地域包括支援センター職員、家族会の会長が参加し、活発な意見が出されている。施設の状況は、地域の方に理解してもらっている。また、地域の行事にも積極的に参加し、公民館などの文化祭には入居者による作品が展示されている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族からの苦情は、出されることは少ない。しかし、家族の面会やカンファレンスで出された数少ない意見は見逃すことなく、職員会議で対応について検討していきたいと考えている。また、家族からの苦情が言いやすい環境づくりについても検討したいと考えられている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>事業所は町内会に入り、地域の行事には積極的に参加されるなど、関わりは活発になってきているが、反面これからは地域の人達をもっと多く訪れるようなホームにしていきたいと考えている。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念とは別に、事業所の理念「おいしい」「たのしい」「こちいい」を掲げている。この理念は、事務所と玄関に掲示されている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、朝礼の際には職員全員で唱和し、職員が「今日の目標」を発表する。毎月1回開催される職員会議では、「理念についての理解」をテーマにし職員間でよく話し合いを行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入会し、町内会主催の掃除などには積極的に参加している。また、町内会の行事(秋祭りなど)には、入居者も参加している。地域の文化祭では、入居者の作品が展示され、地域との交流に熱心に取り組んでいる		地域との行事に熱心に参加されているが、地域の人やボランティアが事業所を訪れての交流がまだ少ないと思われるので、今後は、職員自らが社協や地域の公民館に出向き協力を要請したりしながら、事業所の活動を公民館で紹介し、より多くの方がホームに訪れるように努力していただきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、職員が作成後ホーム長が目を通し、事業所として作成されている。外部評価の結果については、職員会議で職員に伝えられ、この中の改善点については話し合いが行われる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会は、地域の民生委員や家族会の会長が出席し、毎回、事業所と地域との交流が議題とされ、活発な意見が出されている。この会議が、ホームをよりよく理解していただける場所になっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人内で「介護教室」を開催し、これに地域の住民が参加している。また、市が主催する講演会などには講師を職員が担当するなどして、市に協力している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の様子や連絡事項は、毎月発行する新聞をご家族に郵送し、状況を紹介している。また、ホーム内には行事の写真や作品が貼られて、面会時にご家族が見れるようにしてある。3ヶ月に1回行われるカンファレンスでは、家族に状況を詳しく報告し、変化が生じた際には、その都度家族に連絡をしている。		個人のお金の管理について、各自のファイルを作り領収書を整理し家族に出費の詳細を伝えている。今後は家族が残金と出金について、確認した日とサインを記録し、より明確な出納簿を整備していただきたい。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会やカンファレンスでは、家族からの苦情はあまり出てこないが、家族が面会されたときに出された意見を職員会議で取り上げ、話し合いをし改善につなげている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	家族からは職員の異動はしないでほしいといわれるが、職員のマンネリ化を防止するために、法人として定期的な異動が行われる。しかし、異動は最小限にするようにしている。また、新規職員には経験の長い職員が交代で指導するようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人として新人研修を行ない、その後配属された事業所で職員の研修を行う。外部の研修は、認知症介護研修などに職員が参加し、内部の研修としては、毎月の職員会ではほぼ全員の職員が参加し、ホーム長が中心となり勉強会を行っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修会に参加した際に、他事業所の職員と交流をしている。同一法人内のグループホームを訪問し交流する機会を設けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	入所が決まった方が、日中ホームに事前に滞在し体験をしてもらう機会を設けている。その後入所予定者について介護者から詳しい情報を得て、馴染みの関係ができるように努力している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	毎日の生活の中で、入居者の笑顔が見えるときが一番うれしいときであると職員が語っている。また、入居者の得意分野(野菜のきざみなど)を活かしてもらって、職員が助けてもらい支えあっている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	カンファレンスの際に、入居者の思いや希望をご本人とご家族と一緒に考えている。また、入浴などは、ご本人の希望に沿うように支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	介護計画は、職員が分担して担当し、3ヶ月ごとにアセスメントを作成し、課題の分析を行っている。また、カンファレンスの際には、家族とよく話し合い介護の方針を考えている。		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	基本的には、3ヶ月に1回プランの見直しを行い、状況が変化した時には、その都度見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人が有する施設の行事に参加したり、互いのホームを訪問して交流を深めている。また、緊急対応の際は、隣接の施設の看護師の応援を頼むなどの協力や支援体制ができています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接するクリニックには、入居者は定期的に受診することが多く、医師とはなじみの関係ができています。通院できない場合には、往診が可能である。また、緊急時には協力病院の医師の指示に従っています。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所する際に、重症化し医療が必要な場合には設備が整った医療施設に入院していただくように説明を行っている。また、カンファレンスでは、ご家族の意向を確認して相談に応じています。また、個人のファイルに記録し、職員で情報を共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いに関しては、契約書・重要事項説明書に記載し、また書面を玄関に掲示しご家族にも理解をしていただいている。また、個人情報を慎重に取り扱うように職員にも十分に認識するようにしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	気分が優れなくて大声を出す入居者に対して、職員はその人の状況を思い、落ち着くような言葉かけをしている。「その人の立場に立っての介護」について、それぞれの職員が考え支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人の栄養士が、栄養のバランスを考えて、献立を作成し、材料が用意されている。入居者と職員と一緒に献立を相談し、食べたい食事が提供される機会が少ないようである。		入居者の食べたい希望を反映されたメニューを、職員と入居者で作成する取り組みや、入居者と一緒に食材を買う機会も設けていただくことが期待される。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ご本人の希望に沿って入浴を提供している。入浴時間は、ご希望により午後と夕方以降の入浴が可能である。毎日入浴される方もある。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご本人が得意だった作業や現在の状況で行える動作を考慮し、ご自分でできる役割を行ってもらっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候が良い時期には、近くの公園などに散歩に行くようにしている。また、日用品の買い物にも出かけている。今後はもう少し多く外出お機会を多くするようにしたいと職員は考え検討している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけない介護の重要性について、職員は十分に認識はしている。しかし、一人で外に出ると、ホームに戻れない危険性や安全性が必要と考え、夜間は施錠している。日中は施錠していないが、内部から外に出るためには、機械操作が必要である。ご家族には状況を説明し、現在の対応に了解していただいている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回の非難・救出訓練を行っている。毎回の職員会議では、緊急避難方法や緊急連絡について職員の勉強会を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分の補給については、職員が十分に周知し対応している。また、食事摂取状況も職員が十分に観察している。特に注意が必要な方には、個人ファイルに毎回の摂取状況を記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が感じられるような飾り付けをするように心がけている。玄関や食堂には入居者の方の作品を展示して楽しんでもらっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人が大事にしていた家具や小物を持ってきていただいている。仏壇などの思い出が深い持ち物を持ってきていただき、過ごしやすい環境づくりに取り組んでいる。		

介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム げんき福田 (1階)

評価年月日 20 年 9 月 30 日

記入年月日 H20年 9月 30日

管理者

この基準に基づき、別紙の実施方法
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 職 計画作成担当 氏名 山川 美樹

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

理念の基づく運営

1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	事業所独自の理念を作り、寮母室・玄関に掲示している。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	毎朝、朝礼時全員で朗読しており、管理者・職員一人一人が理解し、それに対しての実現に取り組んでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	入居前に、契約書・重要事項説明書等を使用し、家族に説明、理解いただいている。 地域の方にも、玄関に理念を掲示し理解してもらえるよう務めている。		

2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	利用者の散歩の時、挨拶しあっている。 立ち寄っていただいた時は、お茶など出したりして、歓迎の気持ちでもてなし、また訪問していただけるよう働きかけている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会に入り、地域の行事・町内清掃・行事の準備など積極的に参加して地域との関係を密に行っている。		事業者から地域に出るばかりではなく、地域の方にグループホームへきてもらえるように催しなどしたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域の方の見学・相談は随時行っている。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価は、実施する意義を理解し、職員全員で話し合い取り組んでいる。 外部評価は、評価・指摘された事を、職員皆で受け止め共有し、可能な事から改善している。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、グループホームを理解していただくと共に、地域の方・家族・地域包括支援センター職員からの意見で、更なる地域交流がなされている。		
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	法人内で行っている介護者教室の日時・場所・内容を法人誌で告知している。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	今現在、制度が必要な方はおらず、支援は行っていない。		制度の勉強会を行いたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	管理者・職員は、虐待についての知識があり、虐待防止の認識は強くある。 また、入居者の観察をこまめに行い、虐待が見過ごされることがないように注意している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時・解約時は、利用者の状態・生活状況等の情報交換をしっかりと行い、十分な説明で、納得・理解していただいている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	1階フロア会議(利用者)を適時に開いたり、ケース担当者や管理者が一对一でコミュニケーションをはかって、意見を聴いている。それを全職員に知らせ、運営に反映している。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	新聞(法人・GH)にて、情報提供行っている。また、行事写真はすぐに貼り出し、面会時に見てもらっている。ケアカンファレンス時、暮らしぶり等定期的に報告しているが、変化があった場合は、その都度電話等で報告している。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	重要事項説明書で公的窓口の紹介等おこなっている。ケアカンファレンス、面会時など管理者・職員から積極的に声掛けし、意見・不満・苦情を聞いている。その事を伝達ノートに記入、朝礼にて話し、全職員に伝わるようにしている。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎朝の朝礼・会議・伝達ノートを通して意見の交換を行い、反映させている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者・家族の要望に対しては、実現できるように努力している。(前住んでいたところに行きたい、退居者に会いたい、孫の結婚式に連れて行きたいなど)		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>馴染みの職員からの支援を受けられるように、努力している。だが、やむをえなく異動もある。そのダメージを最小限に抑えるべく配慮している。</p>		
<p>5 人材の育成と支援</p>				
19	<p>職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>入社時期、各職員の能力に応じて、外部研修・施設内研修に取り組んでいる。 資料・分権の準備、また、日々の業務内で適切なアドバイスを心がけている。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>研修などで交流する機会を持っている。 同一法人内での交流もあり、お互いがサービスの向上させていく努力をしている。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>親睦会での行事・日常の会話の中でお互いの悩みを話し合ったり、ストレスを軽減したりしている。</p>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	<p>職員個々の頑張っているところ、勤務状況を把握し、さらにレベルアップするためのアドバイスをし、各自が向上心を持って働けるよう取り組んでいる。</p>		
<p>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>				
<p>1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>	<p>面談時、本人自身から不安なことなどよく聴くよう努力している。 受容の気持ちで接し、信頼関係を少しでも早く築けるようにしている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	本人の話と照らし合わせつつ、家族からの話を聴いている。その中で、困っている事、不安な事、求められている事を把握するよう努力している。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談を受ける時は、明確にグループホーム入所を希望している場合である。 すでに他のサービス利用を行っている事が多い。今後もし相談があれば対応したい。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならな馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前に、見学してもらうようになっている。 また、家族からの情報提供や本人の話から、リビングの椅子の配置などを決め、グループホームの雰囲気に馴染めるよう配慮している。本人が居心地良いように気を配っている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活の中で、入居者の生き生きした言動や笑顔が出た時は、職員も共に共感する。 また、入居者の得意な事を教えてもらい、職員も助けてもらっている。お互い支え合って信頼関係を築いている。		
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	職員と家族が共に入居者の生活を支えているという共通認識を持っている。体調の急変時以外の生活の様々な出来事を家族に知らせている。また、家族会行事を共催することで信頼関係を築いている。		
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	様々な本人と家族との関係があるが、それまでの家族の歴史を理解しつつ、その関係がよりよく発展するように支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>入居者以前の生活環境を把握し、本人の生き方・大切にしてきたものを理解する。以前住んでいた所に時々訪問したり、お友達に遊びに来てもらう様声を掛けたりしている。また、以前から通っていた理容院に引き続き行ったりしている。</p>		
31	<p>利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。</p>	<p>入居者同士の関係を考慮して、リビングのソファの配置などを決めている。席の隣同士・向かいどうしでおしゃべりしたり、助け合ったりしている。</p>		
32	<p>関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。</p>	<p>グループホーム退居後は隣接の介護老人福祉施設へ入所されるケースがほとんどのため、入居者や家族との関係もつながりがある。</p>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> </div>				
<p>1 一人ひとりの把握</p>				
33	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>入居者一人ひとりの希望を最大限に取り入れ、グループホームのせいかつを無理強いせず、本人の気持ちを大切にしている。</p>		
34	<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	<p>入居者・家族からはもちろんの事、本人が関わった居宅や地域包括支援センター等の事業所からも情報提供してもらい、生活歴等把握している。</p>		
35	<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。</p>	<p>可能な限りの情報を得て、本人とも面談して現状の把握している。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人・家族と話し合い、その想いや希望を取り入れている。また、主治医や看護師等からの意見も参考に介護計画を作成している。また、本人にとって楽しい事・やりがいに繋がる事が目標となるよう“その人らしい”介護計画となるよう努めている。		
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	基本的に3カ月毎の見直しを行っている。 しかし、本人の状態が変化した時は、その都度見直しを行っている。ケアカンファレンスは、家族も交えて行っている。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護計画をタイムスケジュールにして、ケース記録と同じファイルに入れ、実践できたかチェックしている。また、ケース記録にも日々の言動・変化・介護計画を実践しての結果や気づき等を記録し、次の日からの実践・また見直しに活かしている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人・かく空の要望に対しては、可能な限り実現できるよう対応している。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域のカラオケ教室に通ったり、理容院を利用して地域資源を活用している。ボランティアとの交流等でも、入居者の生活の質の向上を図っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	入居前から利用しているデイサービス等、本人が規模する場合参加している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議で、話し合ったりしている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	隣接のクリニックが協力医療機関であり、本人・家族の納得を得てかかりつけ医となっている。事業所との良好な関係を築けており、適切な医療を受けている。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	協力医療機関は、認知症の理解が深く、入居者をありのまま受容してくれ、入居者も安心して受診している。 また、職員の相談にも乗っていただき、的確な助言・指示を示してくれる。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	訪問看護ステーションと契約しており、入居者となじみのある看護師がともに、入居者の健康状態の管理を行っている。 職員の相談に対しても適切な助言を行ってくれる。		
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院した時は、グループホームでの生活状況を情報提供している。また、入院中お見舞いに行き、身体、精神状況を確認し、家族・病院と早期退院に向けた話し合いを行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p>	<p>契約時に、重要説明事項書にてグループホームの重度化した場合の指針について本人・家族に話している。</p>		
48	<p>重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>重度化した入居者の対応については、かかりつけ医・看護師・家族・職員のチームで話し合いを行っている。その人らしく生きられるよう、グループホームとしての何ができるか常に考えている。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p>	<p>退居後、入居者の状態・生活状況等の情報提供を密に行っている。なるべく、本人の混乱が少なくなるよう配慮している。</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>				
<p>1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>入居者一人ひとりのプライドやプライバシーを損ねないような、1人ひとりに合った言葉かけや対応を行っている。個人情報の取り扱いに関しては、契約書・重要事項説明書に明記し、慎重に取り扱っている。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>やりたい事・したくない事を選ぶ自由を大切に、様々な場面で入居者本人に選択してもらっている。それに、職員が同意し共同決定する事で安心してもらっている。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>入居者の身体的・精神的ペースを考え、入浴・食事・外出等の日々の生活を送ってもらっている。職員は、常にゆっくりと待つ介護に心掛けている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	毎日同じ服装にならないようにし、出かける際には外出着を着てもらっている。また、好みによって化粧をして、いつまでもおしゃれ心を忘れないよう配慮している。理美容に関しては、出張サービスを利用したり、自分のおきにいりの理容院に行ったりと様々である。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事に関わる時間が、美味しく楽しいものとなるように配慮している。それぞれの得意分野で調理や配膳・片付けを行っている。		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	お茶の時間には、好みを聞いてから出したり、買い物の際に、本人の好むおやつや果物を買って来たりしている。お酒の好きな入居者には、冷蔵庫に常備し、好きな時に飲んでいる。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表を使用し、誘導などの支援を行っている。また、排泄担当者が、入居者それぞれの排泄パターンを把握し、全職員に周知して失敗等を少なくするよう努めている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴日は特に決めておらず、入居者の希望の時間帯・湯温で、くつろいでゆったりと入浴してもらっている。入浴が好きな入居者は、毎日入浴されている方もいる。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日中、家事や運動するなどしっかり体を動かしてもらい、生活のリズムを整え、夜間安眠につなげている。また、就寝前のゆったりとした時間に、リビングにいる少人数のり入居者にお茶を出し、くつろいでもらっている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援をしている。	入居者一人ひとりが得意分野で役割を持ってもらっている。その事が楽しみややりがいとなり、生活が充実するよう支援している。また、生活歴等から、今はしていない事でも興味を引き出そうと努めている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	職員は、入居者本人がお金を持つ大切さを理解している。金銭管理能力ある場合、自己管理している入居者もいる。難しい場合は、ホームで財布を預かり、買い物時に渡し自分で支払ってもらっている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	買い物や散歩・地域行事に参加し、積極的に外へ出かけられている。 一人ひとりのその日の希望には、実現できるよう努めているが、無理な場合は、違う日にするなど代替行っている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	一人ひとりの行ってみたい所で、遠い場合はなかなか実現できていない。家族を巻き込んでいきたい。お友達に会いたい時など、近場の場合は実行している。		以前住んでいた家に行ってみたいなど言われる方がいるので、家族と共に実現したい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人が希望する時はもちろん、なかなか言い出せない入居者には声掛け行っている。公衆電話が隣接の介護老人福祉施設にあるため、付き添いを行っている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族, 知人, 友人等, 本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族宿泊への体制整備として、リネン・食事の対応行っている。面会も深夜でなければ受け入れ可能。また、面会に来られた場合は、気持ちの良い挨拶をし、お茶を出し、歓迎の気持ちを表している。また、面会に来ていただけるよう配慮している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員会議などで、全職員に身体拘束について正しく理解してもらい、その身体拘束をしないケアを行っている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	鍵をかける事の弊害は理解しているが、玄関施設に行っている。これについては、家族に徘徊の危険性を理解してもらい、納得済み。また、外に出たい時は職員が付き添っている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	リビングの入居者のそばで記録など行い見守りを行っている。また、対面キッチンのため、入居者の所在や様子が把握しやすい。 夜間は、定期的な巡室、それぞれあった巡室、フットコールの使用で安全に配慮している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	注意の必要な物品の保管・管理は、側隠の担当を決め、適正に行っている。利用者も使用する場合は、必ず職員が付き添い、後片付けを行っている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	予防の精神に心掛け、朝礼・職員会議・防災訓練などで事故防止に取り組んでいる。		
70	急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。	緊急時のマニュアル・勉強会などで全職員が対応できるようにしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	防災訓練を行い、もしもの災害にそなえて避難方法など身に付けている。 法人としての防災訓練にも参加して、地域の方にも協力して頂けるよう働きかけている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	入居者は、高齢で、いつ何が起こりうるかわからない事を、契約時にすべての家族に話し、同意を得ている。 一人ひとりにあったリスクへの対応策は、カンファレンスなどで、家族などと話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎朝のバイタルチェック、その他表情、いつもと違う行動など、しっかり観察して早期に体調の変化に気付くよう努めている。 また、それは職員皆で共有し、対応している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	一人ひとりの薬の目的・副作用・用法・用量に表にして、寮母室内に掲示しており、職員は理解している。 症状などの変化の観察も行っている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	水分摂取を促し、散歩などの運動を行うなど便秘予防に努めている。また、食後にトイレ誘導を行うなど排便しやすい環境作りも行っている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	起床時・臥床時・就寝前は必ず行っている。食後は、口腔内チェックを行い、汚れている場合歯磨きなど行う。 毎食後、口腔ケアを行っている入居者もいる。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	栄養士が作成したメニューを基に料理している。 食事摂取量が低下した場合は，本人の好きな物、食べやすいものを食べてもらっている。 それを、記録に残している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。 (インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウイルス等)	イソジンでのうがい・手洗い消毒を日頃から行い、感染予防に努めている。また、感染症対応マニュアルを作成して実行している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	台所には食器洗浄機があり、調理道具や食器などの滅菌を毎食後行っている。冷蔵庫などは、日々、こまめに掃除・整理整頓を行い、清潔保持を心がけている。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。	季節ごとにオブジェを飾り、プランターで花を育てて、親しみやすい雰囲気ができるように配慮している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等)は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	物品は家庭で使用しているものを使っている。花・置物を配し、家庭的な雰囲気作りに取り組んでいる。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	入居者がひとりになったり、気の合った同志で過ごすのは、居室や廊下にあるソファである。リビングは、入居者が座るソファが決まっており、他者が自由に座ってくつろげる雰囲気ではない。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	火の取り扱い以外原則として、持ち込みは何でも良いこととしているため、入居者それぞれ思い入れのある家具・生活用品・装飾品などを持参し、くつろげる環境となっている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	掃除の時は、窓を開けて換気を行っている。トイレや浴室は随時行っている。冷暖房の温度調節は、本人の希望を聞きつつ外気温と大きな差がないよう配慮している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物内バリアフリーになっており、手すりを廊下・階段・脱衣場・浴室・トイレに設置。浴室には、滑り止めマット・椅子を使用し安全面に配慮している。便座・流し台も入居者にあわせ、低めに設定している。トイレは車椅子利用者でも利用可。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	トイレを分かりやすく表示したり、入浴の時間にのれんを出したり、居室に大きな表札をつけ、入居者の混乱が少なくなるよう工夫している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	建物外周りにプランターを置き、園芸活動を行っている。		

介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護
認知症対応型共同生活介護

事業所名 グループホーム げんき福田 (2階)

評価年月日 20 年 9 月 30 日

記入年月日 H20年 9月 30日

管理者

この基準に基づき、別紙の実施方法
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 職 計画作成担当 氏名 井升 康志

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	-------------------	---------------------------------

理念の基づく運営

1 理念の共有

1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	事業所独自の理念を作り、寮母室・玄関に掲示している。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	毎朝、朝礼時全員で朗読しており、管理者・職員一人一人が理解し、それに対しての実現に取り組んでいる。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	入居前に、契約書・重要事項説明書等を使用し、家族に説明、理解いただいている。 地域の方にも、玄関に理念を掲示し理解してもらえるよう務めている。		

2 地域との支えあい

4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	利用者の散歩の時、挨拶しあっている。 立ち寄っていただいた時は、お茶など出したりして、歓迎の気持ちでもてなし、また訪問していただけるよう働きかけている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会に入り、地域の行事・町内清掃・行事の準備など積極的に参加して地域との関係を密に行っている。		事業者から地域に出るばかりではなく、地域の方にグループホームへきてもらえるように催しなどしたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域の方の見学・相談は随時行っている。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価は、実施する意義を理解し、職員全員で話し合い取り組んでいる。 外部評価は、評価・指摘された事を、職員皆で受け止め共有し、可能な事から改善している。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、グループホームを理解していただくと共に、地域の方・家族・地域包括支援センター職員からの意見で、更なる地域交流がなされている。		
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	法人内で行っている介護者教室の日時・場所・内容を法人誌で告知している。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	今現在、制度が必要な方はおらず、支援は行っていない。		制度の勉強会を行いたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	管理者・職員は、虐待についての知識があり、虐待防止の認識は強くある。 また、入居者の観察をこまめに行い、虐待が見過ごされることがないように注意している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時・解約時は、利用者の状態・生活状況等の情報交換をしっかりと行い、十分な説明で、納得・理解していただいている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	1階フロア会議(利用者)を適時に開いたり、ケース担当者や管理者が一对一でコミュニケーションをはかって、意見を聴いている。それを全職員に知らせ、運営に反映している。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	新聞(法人・GH)にて、情報提供行っている。また、行事写真はすぐに貼り出し、面会時に見てもらっている。ケアカンファレンス時、暮らしぶり等定期的に報告しているが、変化があった場合は、その都度電話等で報告している。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	重要事項説明書で公的窓口の紹介等おこなっている。ケアカンファレンス、面会時など管理者・職員から積極的に声掛けし、意見・不満・苦情を聞いている。その事を伝達ノートに記入、朝礼にて話し、全職員に伝わるようにしている。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎朝の朝礼・会議・伝達ノートを通して意見の交換を行い、反映させている。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者・家族の要望に対しては、実現できるように努力している。(前住んでいたところに行きたい、退居者に会いたい、孫の結婚式に連れて行きたいなど)		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>馴染みの職員からの支援を受けられるように、努力している。だが、やむをえなく異動もある。そのダメージを最小限に抑えるべく配慮している。</p>		
<p>5 人材の育成と支援</p>				
19	<p>職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>入社時期、各職員の能力に応じて、外部研修・施設内研修に取り組んでいる。 資料・分権の準備、また、日々の業務内で適切なアドバイスを心がけている。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>研修などで交流する機会を持っている。 同一法人内での交流もあり、お互いがサービスの向上させていく努力をしている。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>親睦会での行事・日常の会話の中でお互いの悩みを話し合ったり、ストレスを軽減したりしている。</p>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>	<p>職員個々の頑張っているところ、勤務状況を把握し、さらにレベルアップするためのアドバイスをし、各自が向上心を持って働けるよう取り組んでいる。</p>		
<p>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p>				
<p>1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>	<p>面談時、本人自身から不安なことなどよく聴くよう努力している。 受容の気持ちで接し、信頼関係を少しでも早く築けるようにしている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	本人の話と照らし合わせつつ、家族からの話を聴いている。その中で、困っている事、不安な事、求められている事を把握するよう努力している。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談を受ける時は、明確にグループホーム入所を希望している場合である。 すでに他のサービス利用を行っている事が多い。今後もし相談があれば対応したい。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気にならな馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前に、見学してもらうようになっている。 また、家族からの情報提供や本人の話から、リビングの椅子の配置などを決め、グループホームの雰囲気に馴染めるよう配慮している。本人が居心地良いように気を配っている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活の中で、入居者の生き生きした言動や笑顔が出た時は、職員も共に共感する。 また、入居者の得意な事を教えてもらい、職員も助けてもらっている。お互い支え合って信頼関係を築いている。		
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	職員と家族が共に入居者の生活を支えているという共通認識を持っている。体調の急変時以外の生活の様々な出来事を家族に知らせている。また、家族会行事を共催することで信頼関係を築いている。		
29	本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	様々な本人と家族との関係があるが、それまでの家族の歴史を理解しつつ、その関係がよりよく発展するように支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>入居者以前の生活環境を把握し、本人の生き方・大切にしてきたものを理解する。以前住んでいた所に時々訪問したり、お友達に遊びに来てもらう様声を掛けたりしている。また、以前から通っていた理容院に引き続き行ったりしている。</p>		
31	<p>利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。</p>	<p>入居者同士の関係を考慮して、リビングのソファの配置などを決めている。席の隣同士・向かいどうしでおしゃべりしたり、助け合ったりしている。</p>		
32	<p>関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。</p>	<p>グループホーム退居後は隣接の介護老人福祉施設へ入所されるケースがほとんどのため、入居者や家族との関係もつながりがある。</p>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</div>				
<p>1 一人ひとりの把握</p>				
33	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>入居者一人ひとりの希望を最大限に取り入れ、グループホームのせいかつを無理強いせず、本人の気持ちを大切にしている。</p>		
34	<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。</p>	<p>入居者・家族からはもちろんの事、本人が関わった居宅や地域包括支援センター等の事業所からも情報提供してもらい、生活歴等把握している。</p>		
35	<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。</p>	<p>可能な限りの情報を得て、本人とも面談して現状の把握している。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人・家族と話し合い、その想いや希望を取り入れている。また、主治医や看護師等からの意見も参考に介護計画を作成している。また、本人にとって楽しい事・やりがいに繋がる事が目標となるよう“その人らしい”介護計画となるよう努めている。		
37	状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	基本的に3カ月毎の見直しを行っている。 しかし、本人の状態が変化した時は、その都度見直しを行っている。ケアカンファレンスは、家族も交えて行っている。		
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護計画をタイムスケジュールにして、ケース記録と同じファイルに入れ、実践できたかチェックしている。また、ケース記録にも日々の言動・変化・介護計画を実践しての結果や気づき等を記録し、次の日からの実践・また見直しに活かしている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人・かく空の要望に対しては、可能な限り実現できるよう対応している。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	地域のカラオケ教室に通ったり、理容院を利用して地域資源を活用している。ボランティアとの交流等でも、入居者の生活の質の向上を図っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	入居前から利用してるデイサービス等、本人が規模する場合参加している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議で、話し合ったりしている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	隣接のクリニックが協力医療機関であり、本人・家族の納得を得てかかりつけ医となっている。事業所との良好な関係を築けており、適切な医療を受けている。		
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	協力医療機関は、認知症の理解が深く、入居者をありのまま受容してくれ、入居者も安心して受診している。 また、職員の相談にも乗っていただき、的確な助言・指示を示してくれる。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	訪問看護ステーションと契約しており、入居者となじみのある看護師がともに、入居者の健康状態の管理を行っている。 職員の相談に対しても適切な助言を行ってくれる。		
46	早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院した時は、グループホームでの生活状況を情報提供している。また、入院中お見舞いに行き、身体、精神状況を確認し、家族・病院と早期退院に向けた話し合いを行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。</p>	<p>契約時に、重要説明事項書にてグループホームの重度化した場合の指針について本人・家族に話している。</p>		
48	<p>重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>重度化した入居者の対応については、かかりつけ医・看護師・家族・職員のチームで話し合いを行っている。その人らしく生きられるよう、グループホームとしての何ができるか常に考えている。</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。</p>	<p>退居後、入居者の状態・生活状況等の情報提供を密に行っている。なるべく、本人の混乱が少なくなるよう配慮している。</p>		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>				
<p>1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>入居者一人ひとりのプライドやプライバシーを損ねないような、1人ひとりに合った言葉かけや対応を行っている。個人情報の取り扱いに関しては、契約書・重要事項説明書に明記し、慎重に取り扱っている。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>やりたい事・したくない事を選ぶ自由を大切に、様々な場面で入居者本人に選択してもらっている。それに、職員が同意し共同決定する事で安心してもらっている。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>入居者の身体的・精神的ペースを考え、入浴・食事・外出等の日々の生活を送ってもらっている。職員は、常にゆっくりと待つ介護に心掛けている。</p>		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	毎日同じ服装にならないようにし、出かける際には外出着を着てもらっている。また、好みによって化粧をして、いつまでもおしゃれ心を忘れないよう配慮している。理美容に関しては、出張サービスを利用したり、自分のおきにいりの理容院に行ったりと様々である。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事に関わる時間が、美味しく楽しいものとなるように配慮している。それぞれの得意分野で調理や配膳・片付けを行っている。		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	お茶の時間には、好みを聞いてから出したり、買い物の際に、本人の好むおやつや果物を買って来たりしている。お酒の好きな入居者には、冷蔵庫に常備し、好きな時に飲んでいる。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック表を使用し、誘導などの支援を行っている。また、排泄担当者が、入居者それぞれの排泄パターンを把握し、全職員に周知して失敗等を少なくするよう努めている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴日は特に決めておらず、入居者の希望の時間帯・湯温で、くつろいでゆったりと入浴してもらっている。入浴が好きな入居者は、毎日入浴されている方もいる。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日中、家事や運動するなどしっかり体を動かしてもらい、生活のリズムを整え、夜間安眠につなげている。また、就寝前のゆったりとした時間に、リビングにいる少人数のり入居者にお茶を出し、くつろいでもらっている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援をしている。	入居者一人ひとりが得意分野で役割を持ってもらっている。その事が楽しみややりがいとなり、生活が充実するよう支援している。また、生活歴等から、今はしていない事でも興味を引き出そうと努めている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	職員は、入居者本人がお金を持つ大切さを理解している。金銭管理能力ある場合、自己管理している入居者もいる。難しい場合は、ホームで財布を預かり、買い物時に渡し自分で支払ってもらっている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	買い物や散歩・地域行事に参加し、積極的に外へ出かけられている。 一人ひとりのその日の希望には、実現できるよう努めているが、無理な場合は、違う日にするなど代替行っている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	一人ひとりの行ってみたい所で、遠い場合はなかなか実現できていない。家族を巻き込んでいきたい。お友達に会いたい時など、近場の場合は実行している。		以前住んでいた家に行ってみたいなど言われる方がいるので、家族と共に実現したい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人が希望する時はもちろん、なかなか言い出せない入居者には声掛け行っている。公衆電話が隣接の介護老人福祉施設にあるため、付き添いを行っている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族, 知人, 友人等, 本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族宿泊への体制整備として、リネン・食事の対応行っている。面会も深夜でなければ受け入れ可能。また、面会に来られた場合は、気持ちの良い挨拶をし、お茶を出し、歓迎の気持ちを表している。また、面会に来ていただけるよう配慮している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員会議などで、全職員に身体拘束について正しく理解してもらい、その身体拘束をしないケアを行っている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	鍵をかける事の弊害は理解しているが、玄関施設に行っている。これについては、家族に徘徊の危険性を理解してもらい、納得済み。また、外に出たい時は職員が付き添っている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	リビングの入居者のそばで記録など行い見守りを行っている。また、対面キッチンのため、入居者の所在や様子が把握しやすい。 夜間は、定期的な巡室、それぞれあった巡室、フットコールの使用で安全に配慮している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	注意の必要な物品の保管・管理は、側隠の担当を決め、適正に行っている。利用者も使用する場合は、必ず職員が付き添い、後片付けを行っている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	予防の精神に心掛け、朝礼・職員会議・防災訓練などで事故防止に取り組んでいる。		
70	急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的にしている。	緊急時のマニュアル・勉強会などで全職員が対応できるようにしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	防災訓練を行い、もしもの災害にそなえて避難方法など身に付けている。 法人としての防災訓練にも参加して、地域の方にも協力して頂けるよう働きかけている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	入居者は、高齢で、いつ何が起こりうるかわからない事を、契約時にすべての家族に話し、同意を得ている。 一人ひとりにあったリスクへの対応策は、カンファレンスなどで、家族などと話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎朝のバイタルチェック、その他表情、いつもと違う行動など、しっかり観察して早期に体調の変化に気付くよう努めている。 また、それは職員皆で共有し、対応している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	一人ひとりの薬の目的・副作用・用法・用量に表にして、寮母室内に掲示しており、職員は理解している。 症状などの変化の観察も行っている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	水分摂取を促し、散歩などの運動を行うなど便秘予防に努めている。また、食後にトイレ誘導を行うなど排便しやすい環境作りも行っている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	起床時・臥床時・就寝前は必ず行っている。食後は、口腔内チェックを行い、汚れている場合歯磨きなど行う。 毎食後、口腔ケアを行っている入居者もいる。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	栄養士が作成したメニューを基に料理している。 食事摂取量が低下した場合は，本人の好きな物、食べやすいものを食べてもらっている。 それを、記録に残している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり，実行している。 (インフルエンザ，疥癬，肝炎，MRSA，ノロウイルス等)	イソジンでのうがい・手洗い消毒を日頃から行い、感染予防に努めている。また、感染症対応マニュアルを作成して実行している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために，生活の場としての台所，調理用具等の衛生管理を行い，新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	台所には食器洗浄機があり、調理道具や食器などの滅菌を毎食後行っている。冷蔵庫などは、日々、こまめに掃除・整理整頓を行い、清潔保持を心がけている。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族，近隣の人等にとって親しみやすく，安心して出入りが出来るように，玄関や建物周囲の工夫をしている。	季節ごとにオブジェを飾り、プランターで花を育てて、親しみやすい雰囲気ができるように配慮している。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等)は，利用者にとって不快な音や光がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	物品は家庭で使用しているものを使っている。花・置物を配し、家庭的な雰囲気作りに取り組んでいる。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	入居者がひとりになったり、気の合った同志で過ごすのは、居室や廊下にあるソファである。リビングは、入居者が座るソファが決まっており、他者が自由に座ってくつろげる雰囲気ではない。		
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	火の取り扱い以外原則として、持ち込みは何でも良いこととしているため、入居者それぞれ思い入れのある家具・生活用品・装飾品などを持参し、くつろげる環境となっている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	掃除の時は、窓を開けて換気を行っている。トイレや浴室は随時行っている。冷暖房の温度調節は、本人の希望を聞きつつ外気温と大きな差がないよう配慮している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	建物内バリアフリーになっており、手すりを廊下・階段・脱衣場・浴室・トイレに設置。浴室には、滑り止めマット・椅子を使用し安全面に配慮している。便座・流し台も入居者にあわせ、低めに設定している。トイレは車椅子利用者でも利用可。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	トイレを分かりやすく表示したり、入浴の時間にのれんを出したり、居室に大きな表札をつけ、入居者の混乱が少なくなるよう工夫している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	建物外周りにプランターを置き、園芸活動を行っている。		